

平成 22 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18252002
 研究課題名（和文） 先端的な科学技術を視点としたイスラム問題の系譜的かつ広域的な研究と将来の展望
 研究課題名（英文） "Study of Islamic issues and their future prospect based on a historical and broad-region approach from the viewpoint of modern science and technology"
 研究代表者
 北村 歳治（KITAMURA, Toshiharu）
 早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・教授
 研究者番号：00329153

研究成果の概要（和文）：1）系譜研究：農業分野では精糖技術の復元、窯業分野ではイスラム陶器の分析研究、薬学分野では医薬技術と社会意識との接点の研究を通して、前イスラムの時代から近代直前期まで幅広い時代のイスラム技術の系譜が紐解かれた。2）広域研究：中東イスラム、東南アジア、中央アジアの動向分析を通して、地域に育まれた豊かな経済が新たな資源の登場によって消滅していく過程や、イスラム圏の各地で IT がさまざまな形で積極的に利用されている動向も明らかになった。

研究成果の概要（英文）：1) History of technology: Through the studies of the reconstruction of sugar production in agriculture, the analysis of Islamic ceramic in ceramic industry and the consideration on the medical science relating to the social consciousness, the genealogy of Islamic technology from the Early Islamic period to the period just before the Modern age was recovered. 2) Broad-region studies: Through the analysis of the Islamic societies at Middle East, South-Eastern Asia and Central Asia, the movements of the area became evident including the case where the economic activity based on the regional features became extinct because of the appearance of new resources, and the cases where the current IT has been applied positively to the many fields of the Islamic societies.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	8,400,000	2,520,000	10,920,000
2007年度	7,600,000	2,280,000	9,880,000
2008年度	7,400,000	2,220,000	9,620,000
2009年度	9,000,000	2,700,000	11,700,000
年度			
総計	32,400,000	9,720,000	42,120,000

研究分野：国際経済学

科研費の分科・細目：社会科学、科学技術史

キーワード：イスラム、IT、科学技術、系譜研究、広域研究

1. 研究開始当初の背景

研究開始の段階では、情報通信システムとマルチ・メディアに代表される複合的な技術革新の影響は、社会・経済・文化のみならず、外交や安全保障関係、さらには文化の将来像にも及び始めており、イスラム的なものを含め非欧米的な価値観、ネットワークがポジティブな形で国際的なネットワークに相互作用的に働く可能性を追求することが喫緊の課題となった。またかつてはイスラム世界の外縁にあった日本も、イスラム世界の多様な動きから無縁ではなく、日本にしかできない主体的国際貢献」として、イスラム文明との対話・協力を進めることに資する知見を提供する視座が求められた。

2. 研究の目的

本研究は、宗教・民族・政治情勢等に根ざす伝統的なイスラム観を離れ、IT等の先端的な科学技術の利用がもたらす影響とその反作用等に注目してイスラム地域の分析を行い、今日のイスラム問題の展望を試みることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) かつてのイスラム世界が支えていた科学技術や情報交流の側面から、イスラムの科学技術の系譜をたどる、(2) 今日の国際的な潮流を念頭に置き、先端科学の進展が引き起こす生活様式の高質化、伝統的な価値の見直しと多様化、葛藤や軋線等の現象を、イスラム地域の社会・経済・文化問題の基層の動向から探る、という2点を研究の主軸にする。具体的には、(1) では文献史学と物質文化研究との総合的な立場から、イスラムの技術革新の史的展開を考察し、(2) では日本サイドにおいて既に根付いてしまっている諸前提の検証、現地の調査、現地研究者との情報交換と討議等を通しての動向分析を行なう。

4. 研究成果

(1) 系譜研究：農業分野では、前イスラムの甘味料(蜂蜜、果汁)と中世における精糖技術の復元、窯業分野ではイスラム陶器の系譜研究、薬学分野では中世～近代における薬学技術と社会問題の考察等を通して、前イスラムの時代から16世紀のオスマン朝の最盛期まで幅広い時代の技術的系譜が紐解か

れ、さらに生活文化に密着した領域から理論構築の場に至る幅広い領域の科学的側面が明らかとなった。(2) 広域研究：中東イスラム、東南アジア、中央アジアの動向分析を通して、地域に育まれた豊かな地場産業が新たな石油資源の登場によって消滅していく過程や、現代ではイスラム圏の各地で、社会矛盾を抱えながらもIT利用に積極的に動き出そうとしている実態が報じられ、ITが先鋭的なイスラム運動に利用されている側面も明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計49件)

(以下は主要なもの)

- 1) 保坂 修司「真珠の海(2) 石油以前のペルシア湾」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第6号、2010/3、1-32(査読有)
- 2) 北村 歳治「東アジアにおけるイスラム圏 東アジアにおけるイスラム化の歴史的概観とその考察」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第6号、2010/3、33-58(査読有)
- 3) SATO, Tsugitaka “Prosperity (imara) and Disasters (fasad) in Egypt during the Ayyubid and Mamluk Periods Focus on Sugar Production” 『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第6号、2010/3、59-68(査読有)
- 4) 高橋 謙三「東マレーシアにおける辺境地域活性化に向けたマレーイスラムの献身的ICT普及活動 e-Bario 計画の現地調査から」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第6号、2010/3、69-88(査読有)
- 5) 長谷川 奏、吉村 作治「エジプトにおける文化財保存史の一断面(1)」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第6号、2010/3、99-106(査読有)
- 6) 鴨川 明子「モルディブにおける公的高等教育機関の動向と課題」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第6号、2010/3、107-110(査読有)

- 7) 沼田 彩誉子、店田 廣文「トルコの YouTube 事情」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 6 号、2010/3、111-114 (査読有)
- 8) 桜井 啓子「テヘラン大学世界研究科と第三回国際日本研究会」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 6 号、2010/3、123-124 (査読有)
- 9) 北村歳治、長谷川奏編「第 9 回シンポジウム・イスラムと IT - 西欧とイスラム・いま新たな局面 - 」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 6 号、2010/3、125-172 (査読有)
- 10) 北村 歳治「イスラム金融批判と利子概念」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 5 号、2009/3、1-28 (査読有)
- 11) 保坂 修司「薬ミイラ考 - 日本エジプト交流秘史 - 」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 5 号、2009/3、51-64 (査読有)
- 12) 長谷川 奏「エジプトにおけるイスラム陶器登場の道筋を探る(3)」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 5 号、2009/3、79-88 (査読有)
- 13) 長谷川 奏、吉村 作治「エジプト遺跡をめぐる文化行政の動向」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 5 号、2009/3、89-96 (査読有)
- 14) 吉村 作治、長谷川 奏「古代エジプトにおける甘味料(1)」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 5 号、2009/3、97-100 (査読有)
- 15) 北村歳治、長谷川奏編「第 8 回国際シンポジウム・イスラムと IT - イスラム世界の経済と教育 - 」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 5 号、2009/3、181-230 (査読有)
- 16) 保坂 修司「真珠の海 石油以前のペルシャ湾」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 4 号、2008/5、1-40 (査読有)
- 17) 北村 歳治「トルコの EU 加盟の模索」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 4 号、2008/5、77-106 (査読有)
- 18) 桜井 啓子「イランの宗教学院 留学生受け入れと制度改革」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 4 号、2008/5、137-144 (査読有)
- 19) 長谷川 奏「エジプトにおけるイスラム陶器登場の道筋を探る(2)」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 4 号、2008/5、145-152 (査読有)
- 20) 北村歳治「第 7 回国際シンポジウム「イスラムと IT」」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 4 号、2008/5、157-160 (査読有)
- 21) KITAMURA, Toshiharu “ Financial Modernization in Transition Economies ” 『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 3 号、2007/5、43-60 (査読有)
- 22) 桜井 啓子「パキスタン：シーア派宗教学院(マドラサ)の統計」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 3 号、2007/5、99-104 (査読有)
- 23) 佐藤 次高「円錐型の砂糖ウブルージュについて」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 3 号、2007/5、105-110 (査読有)
- 24) 長谷川 奏「エジプトにおけるイスラム陶器登場の道筋を探る(1)」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 3 号、2007/5、111-116 (査読有)
- 25) 吉村作治、北村歳治「第 5、6 回国際シンポジウム「イスラムと IT」」『イスラム科学研究』早稲田大学イスラム科学研究所、第 3 号、2007/5、117-126 (査読有)
- 〔図書〕(計 2 件)
- 1) 北村 歳治(共著)『現代のイスラム金融』日経 BP 2008、253p
- 2) 佐藤 次高『砂糖のイスラム生活史』岩波書店、2008、299p.
6. 研究組織
- (1) 研究代表者
北村 歳治(KITAMURA TOSHIHARA)
早稲田大学・アジア太平洋研究科・教授
研究者番号：00329153
- (2) 研究分担者
佐藤 次高(SATO TSUGITAKA)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：010012981
店田 廣文(TANADA HIROBUMI)
早稲田大学・人間科学学術院・教授
研究者番号：020197502
桜井 啓子(SAKURAI KEIKO)
早稲田大学・国際教養学術院・教授
研究者番号：070235216
山崎 芳男(YAMASAKI YOSHIO)
早稲田大学・理工学術院・教授
研究者番号：050245263
吉村 作治(YOSHIMURA SAKUJI)
早稲田大学・理工学術院・教授
研究者番号：080201052
長谷川 奏(HASEGAWA SO)
早稲田大学・総合研究機構・准教授
研究者番号：080318831
及川 靖広(OIKAWA YASUHIRO)

早稲田大学・理工学術院・准教授
研究者番号:070333135
鴨川 明子 (KAMOGAWA AKIKO)
早稲田大学・アジア太平洋研究科・助教
研究者番号:040386545
高橋 謙三 (TAKAHASHI KENZO)
福井大学・工学部・教授
研究者番号:050377470
保坂 修司 (HOSAKA SHUJI)
近畿大学・国際人文科学研究所・教授
研究者番号:080421220